

絶滅商品 トンボ印のバリカン

相坂 耕作

日本では古くからトンボはめでたい虫として愛され、また「勝虫」として武具をはじめ日本古来の品々に多くそのデザインが使われている。筆者の私設資料館にも、ハーモニカをはじめトンボのマークのグッズが多数あり、そのなかにバリカンにトンボのマークのついたものが数点あるので紹介しておきたい。

筆者の愛読している本のうち、隔週発行している(株)小学館発行の「サライ」誌に絶滅商品のコーナーがあった。そのなかにバリカンが登場したり、超ロング・セラー絶滅寸前商品という単行本が同じく(株)小学館で発行されている。それらの本と友人の理髪店主の私信などを参考にバリカン考を記してみる。

兵庫県には金物の街として有名な三木市があり、刃物がたくさん製造されている。はたしてバリカンも三木市でつくられたものかどうか三木市にある金物資料館に問い合わせしたが、ここでは大工道具が主をなしているらしい。

バリカンは、明治時代にヨーロッパから渡来したもので、フランスの製造会社名(Barriquand et Marre)からついた散髪用の器具である。

日本のバリカンの品質は世界でもトップクラスだったというが、いつしか電動バリカンに変わってしまった。また、今の理髪店ではハサミが主役をなしている。理容師の国家試験でも手動バリカンの技術は問われなくなると聞く。もはや理容界の主役はハサミにとって代わられたらしい。そのハサミも第二次世界大戦中の我が国ではハサミが統制で製造禁止になったというが、バリカンには何の規制もなく製造が続けられていたそうである。

子供の頃、首に風呂敷やタオルなど大きな布を肩に巻き、縁側に座り父親や母親に手動式バリカンで丸坊主の頭を刈りあげてもらい、首すじに刈った毛が入り随分かゆい思いをして、あわてて風

呂に入ったり、髪の毛をバリカンの刃が引っ張って痛いおもいをした諸兄も多いのではないだろうか。あのころは、兄弟みんなが丸坊主頭やおかつぱ頭に仕上げられた時代であった。そのバリカンを製造している会社は、第二次世界大戦直後には東京だけでも39社もあったそうである。ところが現在では、製造及び在庫を残すのは全国でも東京理器(株)や中央理器など僅か2、3社という。いわば絶滅商品となってしまったものである。

日本にバリカンが伝わった当時は、馬の毛を刈るバリカンを真似て作られ、両手で操作する方式もあった(写真1:左)。その後はおなじみの形が定着し、デザイン等はほぼ変わっていない。部品はハンドルとよばれる下腕と上腕、下刃と上刃、ネジ類の8部品の構造である。ハンドル部分は鋳物が多く専門の工場生産されるそうだ。刃は、炭素鋼を圧延して切り出し、フライス盤で削り出すとできあがる。昔から各社が作るバリカンには互換性がなく、部品の使い回しも利かないため各社微妙に刃の形が違う。その刃の下刃には各メーカーがトンボをデザイン化したマークをつけている。筆者が集めたバリカンの中に、絶滅したバリカンのトンボ印があるので紹介してみよう。

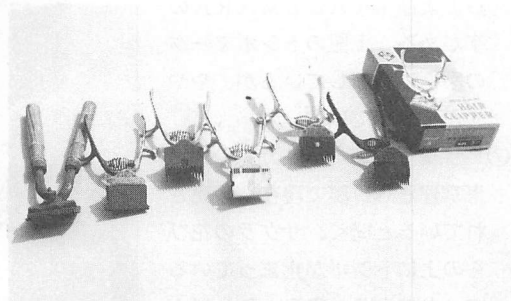


写真1 トンボ印バリカンの色々

① 戦前のバリカンで持つ手は木製品である。これにはトンボのマークは付いていないが民俗的価値があるので紹介しておく。

② YAMATONBO(ヤマトンボ)印のマークがついており、トンボの絵の下に山の字がある。その他TRADEMARKと特級の字がある。ヤマトンボとはヤンマのことか？

③ SAWAMURARIKICO(サワムラ理器鋼)印のマークにTRADEMARKに特製の字がある。トンボがSと共にデザイン化されている。

④ NIPPONRIKICO(日本理器鋼)印のマークにTRADEMARKに特製の字がある。トンボが地球を背負っている姿がデザインされている。

⑤ DRAGONFLY(ドラゴンフライ)印のマークにISHIMARUMEG. およびTRADEMARKの字がある。マークのドラゴンフライ(トンボ)にちなみトンボの図柄がある。メーカー名よりISのマークもついている。

⑥ 同じくDRAGONFLY印のマークにREGISTEREDおよびTRADEMARKの字がある。上記のトンボマークの図柄に酷似しているが、ややずんぐりしている。

⑦ サクラトンボバリカンの箱で、東京理器(株)製で現在も販売されていると聞く。サクラの花びらの上にトンボが止まっているマークがあり、TRADEMARKの字がある。

